



令和7年度「学校安全総合支援事業」
埼玉県成果報告書

児童生徒の「安全に関する資質・能力」の育成を目指して



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

令和8年3月
埼玉県教育委員会

挨拶

日頃、本県教育行政施策や諸事業の推進に当たり、格別の御理解、御協力をいただき心から感謝申し上げます。

皆様御承知のとおり学校は安全で安心な場所でなければなりません。しかしながら、近年それを脅かすような事象が多く発生しています。激甚化・頻発化する自然災害や不審者侵入、登下校中の事件・事故。また新たな危機事象として犯罪予告や弾道ミサイルの発射なども発生しています。

このような状況下において、児童生徒等の命を守るために、過去の教訓を風化させず、安全管理を徹底することや、安全教育・組織活動を充実させることなど学校には多くのことが求められています。

災害安全については、今後発生が懸念される大規模災害に備え、実践的で実効的な避難訓練を実施するなど、防災教育をより充実させる必要があります。

交通安全については、児童・生徒のかけがえのない命を守るためにも令和8年4月1日から改正される「道路交通法」を確実に遵守させ、ヘルメット着用の普及啓発、交通マナーの周知と実践への喚起をしていく必要があります。

生活安全については、依然として県内において不審者による登下校中の声掛け事案や、校地内侵入等の事案が発生していることを受けて、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、警察等と連携した防犯研修・防犯教育の実施を広げていく必要があります。

本県ではこれらの取組を充実させるため、文部科学省「学校安全総合支援事業」を受託し、災害安全、交通安全、生活安全の3つの領域について、安全教育の推進に取り組んでまいりました。

本年度は「モデル地域」を川越市、鶴ヶ島市、本庄市に委託し、それぞれの学校や地域の実情に応じて学校安全の充実・発展に資する実践にお取り組みいただきました。実践にあたり、県学校安全アドバイザーの皆様にご指導をいただき、モデル地域の3市はもとより、県内各学校での安全教育の一層の推進につなげることができました。

県立学校の生徒に対しては、防災教育として「高校生災害ボランティア育成講習会」を開催し、災害時における学校や地域に対する支援者としての自覚や、安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成に取り組みました。

また、県立杉戸農業高等学校、県立川越初雁高等学校、県立岩槻高等学校、県立熊谷西高等学校の4校を「ヘルメット着用推進校」に指定し、生徒や地域の交通状況の実態に応じた実践にお取り組みいただきました。

本事業の推進に当たりまして、県学校安全アドバイザー及び県推進委員の皆様、そして、モデル地域3市の各教育委員会及び拠点校、自転車ヘルメット着用推進校、関係の皆様にご多大なるお力添えをいただきました。改めて感謝申し上げますとともに、埼玉県の学校安全に関する取組がさらに充実・発展することを期待し挨拶といたします。

令和8年3月 県教育局県立学校部保健体育課長 荻原 篤大

令和7年度「学校安全総合支援事業」埼玉県成果報告書

目 次

1	事業概要・事業展開	1
2	事業報告	
◆	川越市の取組 川越市教育委員会 川越市立高階小学校 川越市立高階中学校 川越市立高階北小学校 川越市立高階南小学校	2
◆	鶴ヶ島市の取組 鶴ヶ島市教育委員会 鶴ヶ島市立杉下小学校 鶴ヶ島市立栄小学校 鶴ヶ島市立富士見中学校	5
◆	本庄市の取組 本庄市教育委員会 本庄市立本庄南中学校 本庄市立北泉小学校 本庄市立本庄南小学校 本庄市立中央小学校	8
◆	高校生災害ボランティア育成講習会報告 県立羽生高等学校	11
◆	自転車ヘルメット着用推進校実施報告 県立杉戸農業高等学校 県立川越初雁高等学校 県立岩槻高等学校 県立熊谷西高等学校	15
◆	自転車安全運転推進講習会	19
3	講演資料	
◆	「探究型訓練で育む新しい時代の資質・能力」 慶應義塾大学環境情報学部准教授 大木 聖子 様	20
4	埼玉県推進委員会推進委員及び学校安全アドバイザー等一覧	41

令和7年度埼玉県学校安全総合支援事業

○ 事業概要

児童生徒を取り巻く多様な危険を的確に捉え、児童生徒の発達段階や学校段階、地域特性に応じた取組を全ての学校種において推進する必要性がある。また、家庭・地域との連携・協働をはじめ、学校安全の推進に関し、地域間・学校間・教職員間に差があるとともに、継続性が確保されていない状況が見られるという指摘があり、全ての学校において、質の高い学校安全の取組を推進していくことが求められる。

- ① これまでに蓄積した防災をはじめとする先進的取組を踏まえながら、継続的で発展的な学校安全に係る取組を地域が一体となって推進する。
 - ② 学校安全の組織的取組、外部専門家の活用、学校間の連携をはじめ、地域の学校安全推進体制の構築を図る。
- など、地域や学校の抱える学校安全上の課題に対して、積極的に取り組む地域や学校を支援する。

○ 事業内容

○ 埼玉県推進委員会の設置

- モデル地域・拠点校を中心とした学校安全推進体制の構築のための支援事業（研究授業や避難訓練等への支援・アドバイザー派遣）
- 災害ボランティア活動推進事業
- 交通安全に関する自転車安全運転推進・支援事業

- 有識者、県消防協会、教育事務所、市町村教育委員会、気象台、県警本部職員、県危機管理担当者、県立学校長等で構成
- 学校安全アドバイザーの派遣、取組支援（授業や訓練の支援・情報提供等）、効果の検証、成果発表会の実施等

拠点校を中心とした取組の充実 (小・中学校で実施)

- 県は実施を希望する市町村教育委員会に再委託をする。
モデル地域：本庄市、川越市、鶴ヶ島市
- 市町村教育委員会はモデル地域と拠点校を設定する。実践委員会を設置する。
- ・学校安全計画を見直すサイクルを確立する。
- ・リスクを想定した危機管理マニュアルの作成・見直しを行う。
- ・指導時間の確保等、学校における教育手法の改善を図る。
- ・中核教員の校務分掌の明確な位置付け、研修・訓練の充実を図る。
- ・地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育の充実と関係機関との連携強化を図る。
- ・学校と地域との連携・協働の仕組みを活用した学校安全の取組を行う。等

学校安全アドバイザー派遣 (県が委嘱)

- 安全に関して専門的な知識を有した関係者を「学校安全アドバイザー」として県が委嘱し、拠点校に派遣する。
- ・アドバイザーは、有識者、熊谷地方気象台職員、県警本部職員とする。
- 学校安全アドバイザーの業務
- ・研究授業や避難訓練等、教職員研修に対して指導・助言にあたる。
- ・学校と地域の関係機関等との連携体制の構築を図る。

災害ボランティア育成講習会 (県立学校を対象に実施)

- 支援者としての自覚や、安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。
- 災害時において共助のために率先して行動する生徒を育成する。
- ・15校程度の生徒及び教員を対象に実施。
- ・ボランティア活動について、避難所設置等に関する講習を実施する。
- ・県防災学習センターを利用する。

交通安全教育事業 (県立学校を対象に実施)

- 「自転車ヘルメット着用推進校」4校による実践
- 「自転車安全運転推進講習会」の実施
- ・スクアード・ストレイト教育技法による自転車交通安全教育を実施する。
- ・高校生の交通安全教育講座を実施する。
- ・3会場での自転車安全運転推進講習会を実施する。

期待される 成果

- ・児童生徒等の安全に関する資質・能力を育むための系統的・継続的な学校安全推進体制の構築
- ・学校安全アドバイザー等の専門的知見を活用した学校安全に係る取組の質的向上
- ・支援者としての自覚を促し、安全で安心な社会づくりに貢献できる高校生の育成
- ・教職員等の安全教育、安全管理に関する知識の習得や実践力の向上

事業展開

○ 学校安全に関する事業展開

【埼玉県教育振興基本計画】 基本理念：豊かな学びで未来を拓く埼玉教育
基本目標Ⅵ 「質の高い学校教育のための環境の充実」～子供たちの安心・安全の確保～

モデル地域

- 川越市、鶴ヶ島市、本庄市の3モデル地域で実施
- モデル地域内で小・中学校を拠点校に指定

推進委員会

- 大学関係者、消防関係者、教育事務所、市町村教育委員会、気象台、県警本部職員、県危機管理担当者、県立学校長等で構成
- 学校安全アドバイザーを委嘱、モデル地域に派遣
- 間接的なボランティア活動の取組の推進と開発
- 実施市町村の成果の取りまとめ
- 各事業の効果検証及び成果発表会の実施

災害ボランティア育成講習会

- ボランティア活動についての講義、演習、防災に関する実習等の実施により、災害時において率先して「共助」のために行動できる生徒の育成
- 埼玉県防災学習センターにおいて、県立学校の生徒を対象に実施

県立高校

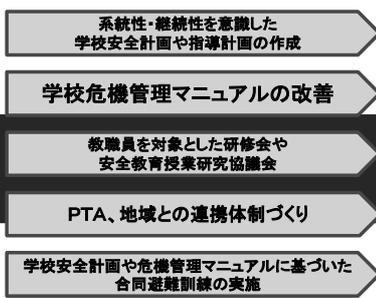
- 生徒の交通安全に関する資質・能力の育成
・「自転車安全運転推進講習会」の実施と各校での伝達
- 安全で安心な社会づくりに貢献する資質・能力の育成
・支援校を中心とした「救急救命に関する講習会」の実施
- 「共助」のために率先して行動する資質・能力の育成
・「高校生災害ボランティア育成講習会」の実施と各校での伝達

令和7年7月2日・推進委員会（県設置）の開催

モデル地域の市町村・拠点校

実践委員会（市町村設置）の開催

学校安全アドバイザーからの指導



学校安全アドバイザーからの指導

実践委員会での効果検証
※地域の学校安全推進体制の構築
※モデル地域での実践の共有・普及

- 市町教育委員会、拠点校、PTA、消防関係者、学校安全アドバイザー等で構成
- 取組内容についての検討
- 関係機関との調整
- モデル地域の学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し・改善
- 中核教員の資質向上についての研修

学校安全アドバイザー

- 専門的な知識を有した専門家（大学教授、消防署員、県警本部職員、気象台職員等）
- 学校安全計画、危機管理マニュアル、避難訓練等、「安全教育」「安全管理」「組織活動」に対する指導・助言
- 気象情報を活用した防災教育に関する指導・助言

令和8年1月7日・推進委員会による各種取組の効果検証

令和8年1月14日・成果発表会の実施（全県への普及）

事業報告書の作成・配布

児童生徒の「安全に関する資質・能力」の育成





川越市マスコットキャラクター
と き も

令和 7 年度 学校安全総合支援事業報告

川越市の取組

川越市教育委員会
川越市立高階小学校
川越市立高階中学校
川越市立高階北小学校
川越市立高階南小学校

1 川越市の概要

川越市は、埼玉県中央部よりやや南部、武蔵野台地の東北端に位置している。人口は 35 万 2 千人を超え、平成 15 年には埼玉県内で初めて中核市に移行した。都心から 30 キロメートルの首都圏に位置するベッドタウンでありながら、商品作物などを生産する近郊農業、交通の利便性を生かした流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光など、充実した都市機能を有している。尚、市立学校数は小学校 32 校、中学校 22 校、特別支援学校 1 校、高校 1 校である。

本市の重点施策の一つに、「命を大切にす教育」がある。令和元年度から令和 4 年度に、本事業の委託を受け、モデル校を指定し研究、実践を行っている。

2 川越市の取組について

(1) 目的

「主体的に行動できる児童生徒の育成を目指す安全教育の推進」

本事業における取組を通して、有事の際に、児童生徒自らが自分の命を守る術を身につけることの他に、自他の命の大切さにも目を向け、自らできることに目を向け、率先して行動できる態度を育成することを目標とした。

(2) 組織

埼玉県学校安全アドバイザー、市教育委員会、市モデル校、市防災危機管理室
各校安全教育主任等（高階消防署、学校運営協議会）

(3) 実践・取組

(準備) 市立学校長を対象とした「学校における防災に係る研修会」の実施（5 月）

・川越市防災危機管理室より「災害発生時の市の動き」について

・3. 11 震災語り部 菅原貞芳氏による体験談（宮城県南三陸町立志津川中学校元校長）

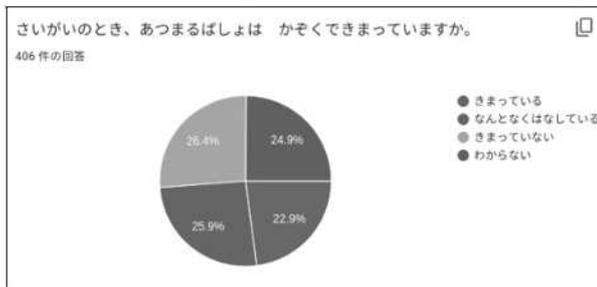
ア 学校安全総合支援事業に係る安全主任会議（4 校合同）（7 月）

・各校の防災教育・安全教育の実態と実施上の課題の意見交換
校種間連携の視点で、今後の防災教育の在り方について考えた。

イ 市教育委員会によるモデル校（高階小）教職員への防災教育研修会
（8 月）

ウ 高階小学校の実践

① 児童への「防災に関するアンケート」実施



緊急時の避難先について、約51%の児童が決まっていない、分からないと回答。避難場所が明確に決まっていない割合が80%近いことから混乱や動けずに困る児童が出る可能性があるとの課題が見えた。

② 高階小学校委嘱研究のテーマ設定（アンケート結果から課題改善へ）

テーマ「子供たちが自分事として捉え、家に帰って広めてくれるような防災学習をしよう」・・・子供・家庭・地域の防災意識を高めるテーマを決めた。

③ 小・中学校合同引き渡し訓練

・東京消防庁 ビーバーその時、いのちを守るためにB-VR を活用した訓練



リアルにシミュレーションされた首都直下地震を体験できます。



④ 消防署連携による防災教育（11月・12月）



煙ハウス体験(3年生)



起震車体験(1・2・4年生)



救命講習応急手当(5年生)

⑤ 市内中学生と連携した防災教育（11月）

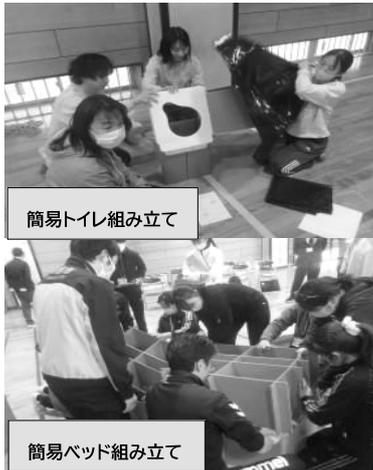
・中学生が講師となり児童へAEDを用いた救急救命体験（6年生）



中学生に救命について教えてもらうことで、小中学校両方の防災意識を高められた。同じ地域に住む中学生だからこそ、もしもあの公園で倒れたら、もしも駅前だったらと具体的な場面を想定して取り組むことができた。

←小中合同救急救命講習(6年生)

- ⑥ 学校運営協議会と共に「防災」について熟議（通年）
 - ・本年度のテーマを「学校安全・学校防災」に設定し、現状や課題、家庭や地域との連携について熟議。地域における防災の取組について情報を共有。
- ⑦ 市防災危機管理室職員と連携し、教職員対象の避難所開設研修（12月）
 - ・体育館での避難所開設の流れと実際 ・ 備蓄庫内の備蓄品を知る



避難所となる学校施設がもつ防災機能について、教職員の理解を深めるきっかけとなった。

この研修会には、高階中、高階北小、高階南小の管理職や教職員も参加した。高階校区全体の防災意識を高める研修会となった。

- ⑧ 高階小学校での今後の取組
 - （児童、地域の防災意識をさらに高め、連帯感を持たせるための取組）
 - ・ 6年生による、防災についての授業（学級活動）の実施
 - ・ 6年生が考える「防災袋」の掲示物作成 →校内掲示や連携校への配布

エ 今後の予定

- ① 高階小学校での大木氏を講師とした防災研修の実施（1月27日）

3 成果と課題について

- 防災アドバイザーをはじめ、消防署や市防災危機管理室職員等による研修を通し、実際の有事の場面をイメージすることができた。
- 学校安全体制の構築について、高階小学校区内の学校との横のつながりや防災意識の向上につながった。
- 小・中学校連携として、中学生が小学生へAEDの使用法について教える立場を経験したことで、中学生にとっても主体的に防災について考える機会となった。
- 学校運営協議会において「学校安全・学校防災」について熟議を行ったことで、防災に対する家庭の意識や地域防災の取組について把握することにつながり、今後の防災教育における、学校と一部地域との連携を開始するきっかけとなった。
- 今後も学校安全教育について、小・中連携を図り、地域全体で魅力ある防災教育の取組の一層の推進を進めていく。
- 地域の連携については、一部の自治会との連携の模索が開始されたが、今後は成功実績をつくり、他の自治会との連携にもつなげたい。



鶴ヶ島市イメージキャラクター
つるゴン

令和7年度 学校安全総合支援事業報告

鶴ヶ島市の取組

鶴ヶ島市教育委員会
鶴ヶ島市立杉下小学校
鶴ヶ島市立栄小学校
鶴ヶ島市立富士見中学校

1 鶴ヶ島市の概要

鶴ヶ島市の人口は約7万人、小中学生は約4500人である。鶴ヶ島市の安全面の特徴は、山や大きな河川がなく、災害リスクが少ないところである。また、「液状化マップ」においても市内全域の危険度は極めて低く、洪水浸水想定区域もごく一部である。

市内には、小学校8校、中学校5校あり、全ての学校にAEDを校舎内に1つ、校舎外に1つ設置している。また、全ての学校に災害用蓄電池を設置している。避難所になる体育館の空調整備については、現在、全ての中学校で整備されている。

2 鶴ヶ島市の取組について

(1) 目的

市として防災教育のねらいを確認した。学校の目標・使命とは、「児童・生徒の命を守ること」である。目標・使命を達成するためには、まず、教職員の正しい知識や深い理解が重要であると捉えている。そのこと踏まえ、本市では、以下の3つを目的とした。

- ア 教職員及び児童・生徒の防災意識を高め、主体的に行動できる態度を養う。
 - イ 実践的・実効的な訓練を通して、教職員の防災教育における指導力向上を図る。
 - ウ 小・中連携による学校安全推進体制を構築する。
- 課題解決の手立てを、「過去の事例や専門的知見を基にした研修・訓練を実施すること」とし、発災後の学校の役割を3つのフェーズに整理した。
- ア 発災直後の初期対応
 - イ 保護者へ引渡すまでの安全確保
 - ウ 保護者への引渡し

また、本市は、本事業2年目となるため、今年度を「展開期」とし、昨年度のモデル校による成果を踏まえ、市内小・中学校で実践的・実効的な防災訓練をすること、そして、今年度のモデル校では更なる実践や改善を行うこととした。

(2) 組織

埼玉県学校安全アドバイザー、鶴ヶ島市教育委員会、モデル校

(3) 実践・取組

ア <平時における準備>市内小・中学校での取組

【危機管理マニュアルの統一】【保護者宛通知「地震災害発生時の対応」】

市内小・中学校で共通理解・共通行動がとれるよう、今年度から危機管理マニュアルにおける対応方法を市内小・中学校で統一した。また、発災時の対応については、保護者の理解が必要不可欠である。そこで、市内小・中学校で統一した「地震災害発生時の対応」を保護者へ通知した。地震発生時において統一した内容は、教室内待機の選択肢や、保護者への引渡しなどである。過去の事例や専門的知見に基づき、これまで慣例だった「とにかく校舎外へ避難すること」から脱却し、「教室内待機によって安全な場所をより多く確保すること」とした。さらに、震度5弱以上の地震が発生した場合は、小・中学校ともに必ず保護者への引渡しを行うこととした。

イ <フェーズ1・初期対応>モデル校（栄小学校）での防災訓練

【写真で危険さがし授業・地震ショート訓練】

埼玉県学校安全アドバイザーである慶應義塾大学大木聖子准教授を指導者に迎え、地震発生時、どこにいても、どのような状況でも「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に素早く身を寄せて安全を確保することの重要性について指導をいただいた。

モデル校では、教師の指示を待たずとも児童が自ら判断して「揺れから身を守る」ことができるようになるために、大木准教授が監修している「写真で危険さがし授業」「地震ショート訓練」を実施した。地震は、いつ起こるか分からないため、全学年・全学級で実施すること、小学校高学年では、教科によって教室を移動することから、自教室に限らず、実際に使用する特別教室で授業を実施することとした。



ウ <フェーズ2・安全確保>モデル校（杉下小学校・富士見中学校）での防災訓練

【情報伝達訓練（封筒訓練）】

レベル1：教員のみで実施

レベル2：児童・生徒と実施（児童・生徒の演技なし）

レベル3：児童・生徒と実施（児童・生徒の演技あり）

埼玉県学校安全アドバイザーである慶應義塾大学大木聖子准教授を指導者に迎え、過去の学校管理下の地震災害で実際に起きていることを踏まえ、「教室内待機」の必要性、そして、教室内待機時の学校の課題を解決するための情報伝達訓練の重要性について指導をいただいた。また、この訓練は、「教職員の連携」が目的であり、うまくやることではなく、課題を見つけ・改善策を考えていくことが重要であることもご指導いただいた。

モデル校では、昨年度のモデル校の取組を生かし、「レベル3」である児童・生徒の演技を入れた訓練を実施した。



エ <フェーズ3・引渡し> 市内小・中学校での取組

【小・中合同引渡し訓練】

地震災害は、同時刻に起こることを踏まえ、市内全体で小・中合同の引渡し訓練を実施した。多くの学校では、保護者は、まず、体力のある中学生を先に迎えに行き、その後、引き取った中学生とともに小学生の弟・妹を迎えに行く流れにした。



(中 学 校)



(移 動)



(小 学 校)

3 成果と課題について

(1) 成果

- ・市内全ての教職員、児童・生徒、保護者の防災意識を向上させることができた。
- ・教職員の防災教育における指導力の向上や、児童・生徒の主体的に行動できる態度の涵養につながった。
- ・慣例化された防災訓練から実践的・実効的な防災訓練へ移行することができた。
- ・地震災害発生時の対応について、市内全体で共通理解をすることができた。また、小・中連携の推進につながった。

(2) 課題（次年度の取組）

- ・鶴ヶ島市のこどもたちの命を守るため、次年度以降も、実践的・実効的な訓練を継続して実施していく。

令和7年度 学校安全総合支援事業報告

本庄市の取組



本庄市教育委員会
本庄市立本庄南中学校
本庄市立北泉小学校
本庄市立本庄南小学校
本庄市立中央小学校

1 本庄市の概要

本庄市は埼玉県北西部に位置する交通の要衝で、宿場町としての歴史と明治以降は生繭の集散地として近代工業・農業の両面で発展してきた地方拠点都市である。現在も、JR 高崎線、上越新幹線（本庄早稲田駅）、関越自動車道、国道 17 号・462 号などが通り、首都圏と上信越を結ぶ交通の要所である。北は利根川を隔てて群馬県との県境であり、市内は概ね平坦な地形であるが、児玉地域南部には山地を抱える地域である。

市内には、小学校 12 校、中学校 4 校の計 16 校があり、中学校 1 校と小学校 2～4 校で構成された中学校区が 4 つある。令和 7 年度より、これまで進めてきた小中が連携した教育をさらに一步進めた小中一貫教育を進めている。それぞれの中学校区の「めざす 15 歳像」の実現に向け、中学校区の特長を生かした教育活動を進めている。

2 本庄市の取組について

(1) 目的

地域の起こりうる災害を意識した防災、減災について、自助・共助・公助の観点から学習を行う。総合的な学習の時間に探究課題として防災を位置付け、具体的な体験活動を通して、社会の一員として防災に取り組む意義や安全なまちづくりについての参画意識を高められるようにしていく。さらに本取組を他の中学校区に広めていく。

(2) 組織

埼玉県学校安全アドバイザー モデル校校長 市内安全主任
本庄市教育委員会学校教育課 本庄市役所危機管理課

(3) 実践・取組

ア 総合的な学習の時間～位置付け（市内全 4 中学校）

市内 4 中学校の 2 年生の総合的な学習の時間に、防災に関する単元を設定した。探究課題を「防災のためのまちづくりのために自分ができること」として、体験的な活動を通して、社会の一員としての取組を考える学習活動を行う。

中学校 第 2 学年 15 時間扱い

「大規模な災害が起きたら～学校が避難所になったら自分たちに何ができるか～」

学習活動 ・防災対策について知る。〈4 時間〉 ・自分たちができることを考える。〈8 時間〉
・社会の一員としてどのようにかかわっていくべきか考える。〈3 時間〉

○ 市危機管理課と連携
 〈市の防災対策について知る〉



市の担当者から本庄市の防災対策について説明を聞く。

ハザードマップを確認しながら、自宅や学校付近で想定される被害を調べ、共有する。

《生徒のふりかえり》 ・ハザードマップを活用して調べ、私たちの地域がどのような災害が想定されるかよくわかった。知識として知ることが、備えにつながると思った。

〈避難所設営体験から自分たちができることを考える〉

避難所資材の設営体験

実際に避難所となった時のことを想像しながら体験を行う。



〔パーティション〕

〔携帯用トイレ〕

〔エアベッド〕

〔段ボールベッド〕

体験をして感じたこと考えたことを話し合う

話し合い後、考えたことを発表する



《生徒のふりかえり》 ・様々な人に対する配慮のある資材に驚いた。・自分にもできることがありそうだ。・いざ避難所を設営するときを想像することができた。

避難所 HUG ゲームを通して、避難所対応の模擬体験を行う



《生徒のふりかえり》
 ・避難所は様々なことに対応しなければならないこと、状況を把握して冷静に対応することが大切だと感じた。
 ・様々なことを対応することがこんなにも難しいことがわかった。

イ 実践委員会の実施

- ・本事業の趣旨を説明し、学校安全に関する小中一貫教育の推進に向けた取組について協議した。
- ・HUGゲームについて協議した。



中学校の総合的な学習の時間で行う避難所 HUG ゲームを実践委員のメンバーで行い、探究活的な学習にするための活用の方法や小学校での活用方法について協議した。



ウ 学校安全研修会の実施

- ・県学校安全アドバイザーによる講義・協議
- ・スクールガードリーダー研修



- ・県学校安全アドバイザーを招聘し、気象に関する基礎知識や災害情報の入手方法について講義をいただいた。
- ・中学校区の安全主任とスクールガードリーダーで中学校区の災害、防犯、交通安全上に関する情報交換や協議を行った。

3 成果と課題について

(1) 成果について

- ・本事業の中で、児童生徒の災害に対する意識を高め、持続可能な社会の一員としての役割を考える学習を行うことができた。市内4中学校の2年生の総合的な学習の時間に、[防災のためのまちづくりのために自分ができること]として探究課題を位置付けたことにより、今後も継続した学びとなる。
- ・学校安全研修会を開催したことで、中学校区毎の防災に限らず様々な課題について情報共有や協議ができた。スクールガードリーダーから話を聞くのはとても有意義であった。

(2) 課題について

- ・本事業をモデル校だけでなく、中学校区の小学校と連携した取組として行うまでには至らなかった。教育課程の見直しを含め、中学校区での取組を来年度以降、実施できるよう教育委員会としても、支援していきたい。
- ・学校での教育活動にとどまることなく、家庭や地域と連携した取組にしていく。



令和7年度
埼玉県高校生災害ボラ
ンティア育成講習会」
に参加して

ボランティア同好会

高橋 快斗

浅沼 煌替

玉手 尚樹

埼玉県立 羽生高等学校



開会式

本日の講習会を頑張ろうと決意！

1. 開会式
2. 講義視聴
3. 避難所運営実習 (HUG)
4. 災害体験
5. 避難所開設訓練
6. 自衛隊によるライフハック実習
7. 消防団活動の概要
8. 全体を通しての感想

発表内容

講義視聴

- ・ 災害の恐ろしさ
- ・ 適切な避難
- ・ 避難所開設の必要性



「HUG」を通して感じたこと。

老若男女、車椅子利用の方、妊婦さん、子供連れ、日本語の分からない外国の方、風邪をひいている方、ペット連れの方、など多種多様な人々が避難してくる。テント泊希望、車中泊希望の方もいる。

給水車や仮設トイレ、食料品を始め救援物資などの対応もしなければならぬ。

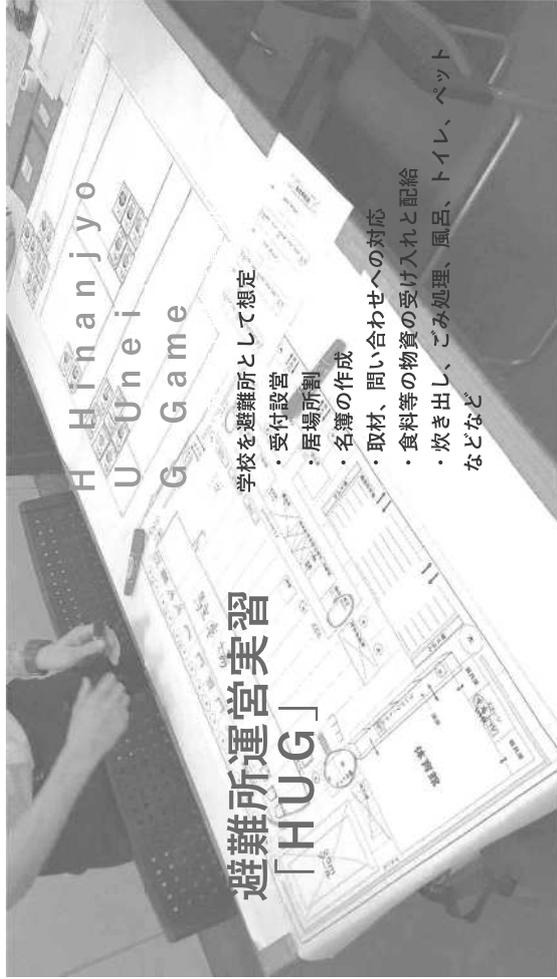
机上での演習を通して、様々な問題が浮かび上がってきた。これを教訓を常に問題意識を持ちながら日常生活を送る。

↓
もしもの際に、少しでも多くのボランティアをしていきたい。



避難所運営実習 「HUG」

- H H i n a n j y o
U U n e i
G G a m e
- 学校を避難所として想定
- ・ 受付設置
 - ・ 居場所割
 - ・ 名簿の作成
 - ・ 取付、問い合わせへの対応
 - ・ 食料等の物資の受け入れと配給
 - ・ 炊き出し、ごみ処理、風呂、トイレ、ペット などなど



災害体験

- ・ 地震体験
- ・ 火災、消火体験
- ・ 暴風体験

